

## 県別人口ランキング

JJ1SXA/池

私の誕生したのは、昭和11年1月、一寸昔には、昭和1桁の生まれと昭和2桁の生まれでは、あの、太平洋戦争で時代背景が大きく違い、昭和2桁の生まれと云うのは、若さを自慢する言葉だったが、今は、「昭和2桁生まれ」はとっくに死語だ。

そんな中で、大正9年(1920年)の人口統計を見つけた、私の生まれた昭和11年から見れば、たった16年前の事だ。

本題に入ると、人口の少ない県のランキングでは、1位は鳥取県(454,675人)、順次2位以下を列挙すると、奈良県(564,607人)、沖縄県(571,572人)、山梨県(83,453人)、福井県(599,155人)、これが人口の少ない県の順番だ。

では多い方からのランキング、1位は矢張り東京都(3,699,428人)、次いで、大阪府(2,587,847人)、北海道(2,359,183人)、兵庫県(2,301,799人)、福岡県(2,188,249人)、愛知県(2,089,762人)と続く。

大正9年(1920年)から50年後の昭和45年(1970年)のランキングはどうなっているかと思ってみると、最下位は、矢張り、鳥取県(568,777人)だったが、以下の順位は大きく入れ替わった、鳥取県から上位を辿ると、次は、福井県(744,239人)、山梨県(762,029人)、滋賀県(889,768人)、奈良県(930,180人)となり、50年前は、最下位から3番目だった沖縄県(945,111人)が6番目に浮上した。

多い方からのランキング、1位は、矢張り東京都(11,408,071人)、2位大阪府(7,620,480人)は変わらずだが、3位は神奈川県(5,472,247人)、4位は愛知県(5,386,16人)、で5位は、前回3位だった、北海道(5,184,287人)となった。

更に50年後の2020年(令和2年)はどうなったかという、最下位は、矢張り、鳥取県(553,407人)だが、順に、島根県(571,126人)だが、前回は下から12番目だった、次いで、高知県(691,527人)で下から9番目だった、後は、徳島県(719,559人)、福井県(766,863人)と続く。

多い方からのランキング、1位は、東京都(14,047,584人)で変わらずだが、2位に神奈川県(9,237,337人)が躍進、2位だった大阪府(8,837,685人)が3位に後退、4位には、埼玉県(7,344,765人)が大躍進、前回3位の北海道(5,224,614人)は、5位に沈んだ。

如何でしょうか、予測通りもあれば、予測と大きく違うところもあったのではないのでしょうか、矢張り首都圏では、東京、神奈川、埼玉の人口は多く、関西では大阪だ。

100年前には、多い方のランキング、15位の神奈川県と16位の埼玉県が、それぞれ、2位と4位になった、東京都の人口も、約3.78倍に増加、首都圏に一極集中と言われるが、正にそのとおりだ、これが解消するのは何年後の事だろう。

(2022年3月記)